

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

2018
春

3月1日発行(季刊)



花いけバトルの仕掛け人

近頃、讃岐の前衛華道、華月流の三代目家元嗣の道を決めた細川康秀氏。花いけバトルの仕掛け人として全国を飛び回りながら、各地でワークショップを開催。基本を伝えながら新しい境地を開拓されています。

第四回 あ・うんの数寄 若人茶会と讃岐もの
特別展 高松市美術館コレクション^{プラス}木村忠太とこぼれる光のなかで
3月から5月までの茶華道・イベント情報
財団からのお知らせ

97

発行・公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL.(087)826-3355 FAX.(087)826-2212



お茶の歴史

日本の喫茶の歴史は、まず中国からお茶の種がもたらされる処から始まりま
す。ざっと八〇〇年前に宋に渡った栄西
禪師が持ち帰った種は、都の梶尾にある
高山寺の明恵上人に託され、お茶の栽培
が始まりました。栄西は「喫茶養生記」
で、お茶の栽培方法や飲み方、その効用
について伝えました。

喫茶の最初は座禪の修行中に眠気覚ま
しとして使われたそうです。禪寺では茶
礼の儀式がこのさ、建仁寺では栄西の

開山降誕祭として、毎年四月二〇日に
「四頭茶会」が開催されています。

鎌倉時代後期には、有力な武士の間で
は闘茶が流行し、賭け事としてエスカ
レートしたため、室町幕府の將軍足利尊
氏は、禁止令を出した程でした。

三代將軍の足利義満は対明貿易で莫大
な資産を作り、中国からたくさんの美術
工芸品を蒐集し、日本の工芸品の創世記
にも繋がったそうです。当時の茶の湯は
美術品の鑑賞とともにありましたが、人
前でお点前をする形式もこの頃に生まれ
たそうです。

戦国時代になると織田信長が茶の湯を

高松城玉藻公園で開催する「若人茶会と讃岐もの」も今年で4回目となりました。県内の高校の茶道部を中心に、若い茶人達の交流の場となればと開催しております。高松市の「ヤングヤング子供大茶会」のご縁から、小学生の子ども達も頑張ってお点前をしてくれます。

また、讃岐の伝統工芸に触れる事も出来ます。伝統工芸士の仕事が体験できるようなワークショップも多数用意していただきました。

茶の湯は大切な日本の文化です。多くの皆様が茶道はとても敷居の高いと言うのを良く耳にしますが、基本的な作法を知れば案外簡単です。しかし、知れば知る程、奥が深くなって、一生かけても到達する事がないように思えます。今回は財団の活動やお茶の事についてわかりやすく解説してみました。

この機会に多くの皆様に、ご家族でお茶の体験をしていただけたら嬉しい限りです。子供さんと一緒にお茶やワークショップなどで一日中、ゆっくりお楽しみ下さい。

政治に利用しました。さらに、豊臣秀吉の時代には、利休が禪の精神性を基礎にわび茶を完成させ、今に伝わる茶の湯の基本となりました。

江戸時代に入ると、片桐石州が徳川本家の茶道指南に迎えられ、茶の湯は大名が中心になりました。そのため全国に広がり、それぞれの地方で独自の発展を遂げました。千家の茶の湯も、また大名家に守られながら利休の茶の湯を伝えました。江戸後期には松江藩の松平不昧公や大老になった井伊直弼も大名茶人として多くの資料を残しています。

讃岐では、松平頼重公の時代に「官休

庵」として知られる武者小路千家を迎えました。京焼の絵付けの焼物の創世記に活躍した理平焼きの始祖もお庭焼きとして迎られ、今も十四代理平として活躍しています。

明治時代は、大名の道具を受け継いだ財閥の当主達や政治家が、茶の湯を中心に交流を深めました。また、地方でも有力な家の主人達の多くがお茶を始め、戦前の昭和時代まで続きました。

お茶の歴史が始まって約七〇〇年間は男性の重要な教養のひとつとして伝えられて来ました。こうして見ると茶の湯は日本の中世から近世の歴史そのものと言えるかもしれません。戦後の茶道とは全く違う世界ですが、お茶の道具は、現代まで大切に受け継がれ、当時の茶人の趣味や美意識を伝えていきます。

明治の後期から、行儀作法などの教育の一環として女性にも門戸が広がりました。そして、戦後は女性の教養や趣味としての茶の湯が発展しました。誰でも茶の湯が楽しめる時代になったと言えるのではないかと思います。

現代のお茶

平成になると時代は、違う方向に大きく変化しました。抹茶は言うに及ばず煎茶やほうじ茶と言った日本茶そのものの消費量が大きく減っています。それでも、ホテルなどでは、ティーバックや粉のお茶で提供する所が多いのではない

でしょうか。面白いのは、日本ではお茶は無料のサービスという感覚が、どこか受け継がれています。

しかし、日常的にはコンビ二で、お茶も含めて多種多様の清涼飲料水がペットボトルで並んで、気分に合わせて気軽に好きな飲み物を選べる時代になりました。そして、一番普及しているのは、日本では生産のできないコーヒーかもしれません。仕事をしながらのコーヒープレイクは日常的な習慣になっていきますし、用途に合わせて安いものから高級の物まで選択肢も多いようです。

本来究極のインスタントであるお抹茶がそれ程普及しなかったのは、お茶が高いとか作法が難しいとか以前に、飲む機会が無かったので、知らない人が多いという現実があるのだろうと思います。

小学生向けに茶の湯のワークシヨップをした時に、家で飲むお茶がペットボトルという子供が全体の三割弱で、お茶を淹れる急須を家で見ることがないという子もいました。

そうは言いながらも子ども達に、手間をかけて美味しく淹れた日本茶を体験してもらおうと、とても気に入ってくれます。和菓子を添えると目が輝きます。子ども達の味覚は繊細です。

こだわりのお茶

幸せな事に、現代の日本は世界中の美味しい料理が集まるので、それに合わせ

たお酒や飲み物にもこだわるようになりました。料理とワインとか、スイーツとお茶の組み合わせも多種多様になり、こだわりの美味しい店には人が殺到します。

抹茶の場合は、アイスクリームやいろいろなお菓子にも使われるようになりましたが、残念ながらほとんどの製品は、あくまで風味で、本物の抹茶を使っている訳ではありません。しかし抹茶の存在を改めて知っていたく機会になったと思います。

本格的な抹茶の栽培は、新芽が出る頃に日陰を調整しながら育て、さらに碾茶に加工されて半年ほど寝かせるので、非常に手間が掛かります。究極のお茶と言っても良いかもしれません。煎茶の玉露なども同じように手間が掛かります。

煎茶は静岡。抹茶を作っているのは宇治の茶匠で、昔からほぼ独占が許され、製法が守られて来ました。どの時代でも最高級のお茶は非常に高価でした。

もともと薬として始まったので、茶葉そのものを石臼で細かい粉にして竹の茶笥で攪拌して飲用します。完全にお湯に溶ける訳ではありません。また、そのなごりもあって今でも一服と数えます。

茶会のスタイル

茶の湯は、究極のおもてなしと良く言われますが、お茶会のやり方にもいろいろあって、現代で一般的に接する機会が

多いのが大寄せのお茶会です。時には一席に五〇人以上の不特定多数のお客様を相手にするので、ある程度形式的なスタイルになります。

利休さんの茶室と伝えられる国宝の茶室「待庵」は二畳ですので、基本的には三人くらいまでしか入れない狭い空間です。亭主と客の距離も非常に近いので緊張感のある空間と言われています。

利休さんの考えた茶の湯は一客一亭とあって、亭主と主となるお客様とのもてなしが基本となっています。隅々まで心配りを行き届かせるには、出来るだけ少人数の茶会の方が良いのですが、それで考案されたのが茶事という形式です。しかし、現代では、茶事に参加できる機会

は、茶の湯を勉強していてもなかなかありません。

去年竣工二〇年を迎えた財団の茶室「美藻庵・晴松亭」は、茶事から大寄せまでに対応できる現代の茶室として、様々な茶席に利用できる茶室です。

財団が毎月主催する五人様茶会は、茶事を簡略化した感じの茶席です。

大寄せの茶席のように一度に二〇人以上のお客様に一日中対応するには、形式的な運営になりがちですし、茶席の亭主側の負担も大きいですが、五人様茶会は少人数で比較的じっくりお茶会が出来るので、主客それぞれに楽しめますし、より満足度の高い茶席が出来ます。

同じ道具組や茶席のテーマなども、参加されたお客様によって、全く違う展開

になったりするので、勉強にもなりますし楽しいです。お茶会は形式以上に臨機応変におもてなしする心が大事になるのではないかと思います。

茶の湯のこれから

茶の湯は、「足るを知る」といった、禅の精神性。薬としての実用性や、嗜好品としての楽しみがあります。歴史的な美術工芸品や、建築に直接触れながら、見聞を広めることもできます。そして、何より人と人の心の交流が可能になるのは、今のようなSNS全盛の時代こそ、必要な事ではないかと思っています。

全くフィールドを変えて、現代アートとの組み合わせも可能です。現代は工芸品も作家の時代です。伝統的な茶の湯の方法を借りることは、新しい可能性を感じます。茶会そのものも、インスタレーションであったり演劇と似ていたり、ひとつの表現の場としてとらえることも出来ると思います。

若人茶会に参加して下さる高校の茶道部の皆さんにとっては、日頃のお稽古の成果を発表する場であり、学校から出て一般のお客様とお話しできる貴重な機会でもあります。

この一日の体験が若い彼らには信じられない程の成長になると思います。興味があれば、経験の有無とか気にせず一度参加していただけたら茶の湯の楽しみを感じていただけるかもしれません。

特別展

高松市美術館コレクション+ 木村忠太とこぼれる光のなかで

The Collection of the Takamatsu Art Museum +
In Spilling Light with Chuta Kimura

【開催日時】2018年 2/17(土) - 3/25(日)

【会場・主催】高松市美術館

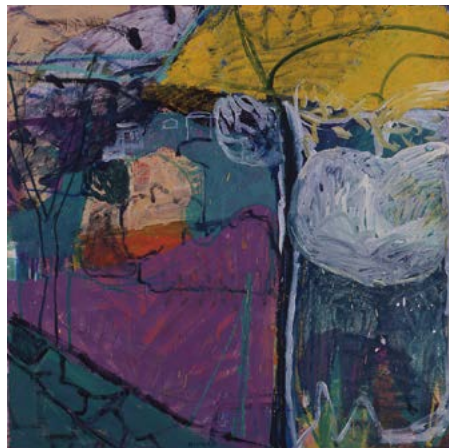
当財団の理事長として平成7年より22年まで、また、公益財団法人に移行後評議員として、いつも明るい笑顔で財団をご指導くださった木村等氏の実兄・木村忠太画伯の展覧会「高松市美術館コレクション+ 木村忠太とこぼれる光のなかで」が開催されています。平成元年に高松市美術館開館記念の「木村忠太展」が開催され、高松出身の「魂の光」を描く画家が広く紹介されました。後年、財団の文化講演会、作品の鑑賞を交えた「光の画家・木村忠太の世界」で、理事長から、栗林公園でトンボつりの上手なお兄さんと一緒に遊んだこと、絵描きに反対する父の傍で心配そうにしていた母の顔を憶えているなど幼い思い出をお話いただいたことなど懐かしく思い出されます。この機会に郷土の画家・木村忠太が繰り広げる光の世界をお楽しみいただきたくご紹介します。

1987年7月、栗林公園内の旧美術館に木村忠太の訃報が届いた。私たちは、1年後に紺屋町に移転オープンさせる新美術館における木村の個展を準備していたので、その突然の逝去に呆然としたことが今思い出される。そして、開館して約半年後の1989年3月、日本の公立美術館で初めて開催された木村の個展は本人不在の「遺作展」となった。オープニングには遠路パリより幸子夫人が参列くださり、木村の制作を支え続けた画廊オーナーによる記念講演会は、遣り残した「木村先生」の死を惜しみ涙をぬぐう姿に誘われ、感動に包まれた。それほど魅力に溢れる木村忠太とは一体どんな人だったのだろうか、木村生誕100

年・没後30年を記念し、今一度振り返りたい。

1917年、高松市に生まれた木村は、1936年に上京すると二科洋画研究所に通い、翌年に初入選した「独立美術協会展」を舞台に活躍する。戦後は、53年にフランスに渡り87年パリで逝去するまで、ほとんど帰国することなく、フランスを舞台に自らを「魂の印象派」と称して画業に専心した。

その頃の洋行とは、2か月の船旅の末、マルセイユに到着するというもので、木村夫妻には相当な覚悟があったはずだ。パリの一隅に住んだ木村の生活は苦しく、画業では「中心の問題」に突き当たり模索する中、「内なる中心」に行



木村忠太《ガラス郊外》1975 高松市美術館蔵



木村忠太《真昼》1987 高松市美術館蔵

き着く。「内なる中心」とは光に通ずるもので自らの感動を指し、それは固定されずに常に動きまわっている。中心が動くことこそが自由のあかしであり、極東から西洋にやってきた画家が、東西の狭間にあつて悩みぬいた末、獲得したスタイルであった。

財団行事予定

(三月～五月)

三月

◆書道教室 毎月第一・第三金曜日

森本義人先生

三月二日(金)・十六日(金)

午前十時～十二時

◆和菓子講座 高橋初乃先生

三月九日(金)午前十時～十二時

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

毎月第二・第四土曜日

山下純子先生

三月十日(土)・二十四日(土)

午後一時～

◆三月月釜 五人様茶会

日時 三月十八日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 裏千家 口入田宗美

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費 五千円

入席時間ご案内(各席三時間十五分を予定)

第一席 A席・B席 九時

第二席 A席・B席 十時三十分

第三席 A席・B席 十一時十五分

第四席 A席・B席 十二時四十五分

第五席 A席・B席 十四時十五分

◆月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

三月二十日(火)午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

四月

◆懐古講座 三友居 山本勝先生

四月三日(火)午前十一時～午後三時

◆書道教室 森本義人先生

四月六日(金)・二十日(金)

午前十時～十二時

◆和菓子講座 高橋初乃先生

四月十三日(金)午前十時～十二時

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

四月十四日(土)・二十八日(土)

午後一時～

四国最大の古墳に挑戦

富田茶臼山古墳をご存知ですか。さぬき市にある前方後円墳でその長さは139mもあり四国最大の古墳です。

その古墳をモデルにしたケーキがあると聞いて調べていると「ケーキ作り体験」があるということで参加してきました。

大山牧場のジャージー牛乳と香川県産有精卵を使用して焼き上げたロールケーキ生地を3段の古墳の形に合わせて型抜きし、それを重ねて生クリームを塗って仕上げ、その上に樹木に似せて作ったマジパンを飾り付けて完成です。文章にしてしまうと簡単ですが、古墳の型を作るのに3年かかったそうで、生クリームも垂れすぎないようにちょうどいい硬さに調整されており、ケーキ作り素人の私でも綺麗に仕上げることができました。

全長は30cmもあり1/643の大きさだそうです。本物にも負けない迫力ある美味しい古墳ケーキでした。



くにもの(29)

美藻庵・晴松亭

郷土の文化振興に深い理解を示した中條晴夫氏の思いが中條文化振興財団を誕生させ、その思いは公開の茶室「美藻庵・晴松亭」という「形」になり、その形を大切に受け継いで、文化の継承と創造に寄与されてきました。

町なかにあつて交通の便良さ、使い勝手の良さが喜ばれお茶の流派に関係なく親しまれてきましたが、そんな中で、近年、設立二十周年を迎えた茶室の白眉を飾って、武者小路千家お家元をはじめいろいろな方たちがお祝いの釜を懸けて、たくさんの方々が催されました。

また、「形」は茶会だけでなく、講演や演奏、展示会場など多彩な文化活動の舞台にも使われて、お茶以外の人々にも浸透してきたようです。露地の風情は侘茶の精神に沿い、近代的な立礼のしつらいは新しい茶の方向を備えて、茶室は多面的な展開を見せながら新しい「形」を作っていくそうです。



1967年、光が降り注ぐ南仏カンヌ近郊のクロ・サン・ピエール内にアトリエを持った木村は、こんな風に語っている。「カンヌ、ニース、この辺が一番四国に似ている。それだけでなく。光がね。南フランスの光が好きなんです。結局僕のもっている光に似た光がある」(『アート・トップ65』1981年10月)。

渡仏から33年後の1985年、一度だけ木村は帰国し、弟の木村等とホテル川六で再会を果たしている。「本当は帰りたんだ。(中略)でも。ちゃんとした絵かきになるまでは帰らないぞ、と僕は思ってきた」(『三彩430』1983年7月)。

画家は郷愁に駆られながらも、故郷に通じる光の中で制作を続けた。

本展覧会では、昨年度木村幸子夫人(パリ在住)より寄贈いただいた新収蔵品5点の初披露に加え、渡仏後の画業の変遷や彼が到達した世界観を油彩画約20点とドローイング10点で紹介する。そして、木村とは世代が異なる17名の所蔵作家の作品により、彼が対峙した「光」を今を生きる美術家たちがどのように捉え表現しているものとも見ることができ。また、特別展示として、展示室一面を覆う曾谷朝絵(神奈川県在住)の映像インスタレーション、藏本秀彦(琴平在住)が描く《それでも木漏れ日は》や近藤亜樹(小豆島在住)監督・脚本による映画《HICKARI》の上映など、魅力的な展示が広がる。

毛利直子(高松市美術館学芸員)

◆ 四月月釜 五人様茶会

とらの会も楽しく五年目の節目を向かえました。まさに春爛漫の私たちでござい

ます。

日時 四月十五日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 裏千家 とらの会

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費・入席時間 三月五人様茶会と同様

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

四月十七日(火)午前十時〜午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆ 晴松亭コンサート

四月二十一日(土)午後一時・午後三時

詳細は最終ページに記載

◆ 第四回 あ・うんの数寄

四月二十九日(日)午前九時〜

◆ 五月

書道教室 森本義人先生

五月四日(金)・十八日(金)

午前十時〜十二時

◆ 和菓子講座 高橋初乃先生

五月十一日(金)午前十時〜十二時

◆ ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

五月十二日(土)・二十六日(土)

午後一時〜

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

五月十五日(火)午前十時〜午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

◆ 五月月釜 五人様茶会

草木もますます色濃くなり初夏の香り漂う季節、優雅な時間をお過ごし下さい。

日時 五月二十七日(日)

◆ 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 武者小路千家 佐藤守春

香席 御家流香道 香雲会

茶席 濃茶・香・点心席

会費・入席時間 三月五人様茶会と同様

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要です。

お申込み・お問合せは、当財団事務局まで

(水曜日休館)高松市番町二丁目一十二

☎ (087) 826-3355

茶 華 道 ガ イ ド

安部流洗心会四国支部 ☎ (0877) 86-3442

3/24 象谷忌茶会 席主：安部流四国支部
玉藻公園披露閣
1,000円(記念品有) 9:00～15:30

江戸千家不白会香川支部 ☎ (087) 851-5330

4/22 江戸千家不白大会 席主：中村宗敬
中條文化振興財団 700円 9:00～15:00

(一財)小原流高松支部 ☎ (087) 886-7851

4/29～30 「花の輪・人の輪—みんなの花展」高松中央地区展
アイバル香川(香川国際交流会館) 無料
29日10:00～17:00、30日10:00～16:00

表千家同門会香川県支部 ☎ (087) 845-4638

3/4 第12回茶の湯文化にふれる市民講座
講師：北村美術館 館長 木下收
高松市生涯学習センター 無料 12:00～16:00
5/13 東讃四季茶会 席主：三好宗千
中條文化振興財団 600円 9:00～15:00

香川大学表千家流茶道部 ☎ 090-8977-8417

3/18、4/15、5/20 月釜 龍光塾 500円 9:00～14:00

華道一生本流 ☎ 090-5141-0750

5/2～3、5～6 華道一生本流いけばな展2018
香川県文化会館 前売400円・当日500円
9:00～16:00(2日のみ10:00～)
茶席 500円9:30～15:30(2日のみ10:00～)

琴平月釜茶会 ☎ (0877) 58-9551

4/1 松尾寺月釜 席主：片桐宗恵(裏千家)
松尾寺 500円 9:00～15:00
5/27 松尾寺月釜 席主：金丸洋子(静風流)
松尾寺 500円 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎ (0877) 62-0798

3/11 月釜 多度津 席主：石川宗雅
多度津総合福祉センター 500円 10:00～15:00
3/18 月釜 善通寺 席主：山下宗澄
樟蔭軒 500円 9:00～14:00
3/25 利休忌 席主：香川支部
総本山善通寺 2,160円 10:00～15:00
4/1 月釜 坂出 席主：口入田宗美
翠松閣 500円 10:00～14:00
4/1 月釜 琴平 席主：片桐宗恵
松尾寺 500円 9:00～15:00
4/15 正御影供 席主：善通寺教授者
総本山善通寺 500円 10:00～15:00
4/29 瀬戸大橋展望茶会 席主：坂出B班
坂出番の州公園 300円 10:00～15:00
5/4 月釜 坂出 席主：小西宗寿
翠松閣 500円 10:00～14:00
5/13 月釜 善通寺 席主：安井宗善
樟蔭軒 500円 9:00～14:00
5/13 バラ園茶会 席主：坂出
番の州公園バラ園 300円 10:00～15:00
5/20 月釜 席主：観音寺教授者
働く婦人の家 500円 10:00～14:00
6/10 菖蒲茶会 席主：坂出
川津菖蒲園 300円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎ (087) 861-3136

<淡交会高松支部 月釜>
前売600円・当日700円 9:00～15:00
4/1 席主：高畑宗玲 中野天満宮天神会館
6/3 席主：田中聖聖 大西・アオイ記念館

石州流讃岐清水派石州会 ☎ (087) 898-6569

4/8 栗林公園月釜 席主：金澤宗和
掬月亭 600円 9:00～15:00

茶道石州流宗家 ☎ (087) 881-2858

5/3～4 たかまつ春のまつり フラワーフェスティバル
席主：久保宗照
中央公園 400円 10:00～15:00
5/5 玉藻公園一般開放記念 席主：久保宗照
玉藻公園 10:00～15:00

東讃茶道懇話会 ☎ (087) 898-0391

4/15 月釜 席主：表千家 萌生会
池戸西徳寺 600円 9:00～15:30

武者小路千家香川官休会 ☎ (087) 851-2258

<香川官休会月釜> 無量寿院 600円 9:00～15:00
3/4 席主：多田洋子
5/6 席主：在松会

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎ (087) 879-0717

<由佐城月釜茶会> 第2研修室(和室) 当日500円
3/18 席主：森本宗恵(裏千家 高畑宗稔社中)
9:30～14:00
4/15 席主：真子宗博(表千家) 9:30～14:30
5/20 席主：川原宗津(裏千家) 9:30～14:30

中條文化振興財団 ☎ (087) 826-3355

3/18 3月月釜 五人様茶会 5,000円
席主：裏千家 口入田宗美
4/15 4月月釜 五人様茶会 5,000円
席主：裏千家 とらの会
5/27 5月月釜 五人様茶会 5,000円
濃茶：武者小路千家 佐藤守春
香席：御家流香道 香雲会

以上の茶会はいずれも点心席を含みます。
詳細は、財団行事予定をご覧ください。

坂出市建設経済部産業課にぎわい室 ☎ (0877) 44-5015

3/18、4/15、5/20 崇徳上皇の足跡と国宝神谷神社を
めぐる 坂出市観光案内所 9:00～●
4/18 与島観音めぐり 坂出市観光案内所 9:00～●
4/28 春の遍路道あるく
坂出市観光案内所 9:00～●
4/29 瀬戸大橋展望茶会 瀬戸大橋記念公園
刻月亭 300円 10:00～15:00
5/13 さかいで三島物語～与島・小与島編～
坂出市観光案内所 9:00～●
5/27 さかいで里山めぐり・史跡の城山編
坂出市観光案内所 9:00～●
6/1～14 かわつ花菖蒲園一般開放
かわつ花菖蒲園 9:00～●
3日 かわつ花菖蒲祭り 9:00～●
10日 茶会 300円 10:00～15:00
6/2 さかいで三島物語～櫃石島・岩黒島編～
坂出市観光案内所 9:00～●

坂出市民ホール ☎ (0877) 45-1505

3/28 人気アニメ大集合！
ちびっこ映画まつり 10:00～●

坂出市民美術館 ☎ (0877) 45-7110

3/6～25 第32回 現代仏像彫刻展 9:00～●
4/21～22 第56回 坂出華道連盟華展 9:00～●
4/28～5/13 坂出市民美術館選
春のロビー展 9:00～●
5/26～6/17 さかいでの四季フォトコンテスト2018
9:00～●

かまどホール ☎ (0877) 46-2178

3/3～25 清瀬美悠紀・和幸福展
「手描き友禅と俳句」—白鳥— 10:00～●
3/31～4/30 備前焼「藤原和と若手備前焼作家による
第7回作陶展」 10:00～●
5/12～6/10 染色染仁「百花百様」 10:00～●

多度津町産業課 ☎ (0877) 33-1113

4/1 たどつさくらまつり
県立桃陵公園 9:30～●

サクラートたどつ(多度津町民会館) ☎ (0877) 33-3330

3/10 第6回尽誠学園アートフェスティバル“魁”
2階ホワイエホール
13:30～(ロビー展示10:00～) ●
3/17 サクラートたどつ自主事業
映画「ボクは坊さん」 第57番札所栄福寺
住職の実話を基に描いた物語
ホール 14:00～●
3/31 第36回丸亀高校吹奏楽部定期演奏会
ホール 18:00～●

丸亀市文化観光課 ☎ (0877) 24-8822

3/11～18 平成29年度丸亀市若手芸術家支援事業
(Re) Collection 丸亀市猪熊弦一郎現代
美術館2階造形スタジオ 10:00～●

丸亀市文化協会 ☎ (0877) 24-8822

<まるがめおしろまつり協賛市民展> 9:30～●
5/1～4 書道展 丸亀市立資料館
5/1～4 絵画展 丸亀市生涯学習センター
1Fギャラリー1・2
5/3・4 華道・ちぎり絵・バラ展・陶芸・写真・創作
粘土・俳句・茶会
丸亀市生涯学習センター 茶会のみ●

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877) 24-7755

～3/25 「企画展」荒木経惟 私、写真。 10:00～●
会期中の日曜日
キュレーターズ・トーク 各日14:00～●
～3/25 「常設展」猪熊弦一郎展 人物像10:00～●
3/10～11 みんなで知ろう！アラキー。(対象:中
学生、高校生とその年齢にあたる方)
11:00～●(保護者●)

3/24～25 親子向けワークショップ
貼って遊ぼう べたべた！じぶんのかたち
(対象:子どもと保護者、申込不要) 10:00～●
4/14～7/1 「企画展」
荒井茂雄 人生の詩(仮) 10:00～●
4/14～7/1 「常設展」猪熊弦一郎のおもちゃ箱(仮)
10:00～●

丸亀市縁歌総合文化会館 ☎ (0877) 86-6800

【アイレックス】

4/22 第21回琴会 大正琴の集い
大ホール 12:00～●
4/29 平成30年度全国吟詠コンクール
香川県予選大会 大・小ホール 9:00～●
5/20 2018丸亀ふるさと味な(味わい)祭り
郷土芸能発表&郷土料理・バザー
大ホール 12:00～●

あーとらんどギャラリー ☎ (0877) 24-0927

3月 常設展 10:00～●
4月 常設展 10:00～●
5/6～27 蔵本秀彦 展 10:00～●

善通寺市教育委員会 生涯学習課 ☎ (0877) 63-6328

4/29 古墳の日
王墓山古墳・宮が尾古墳・野田院古墳
8:30～(予定) ●
5/5 獅子舞大会(讃岐宮) 讃岐宮 10:00～●

わが家ギャラリー木さん堂 ☎ (0875) 63-4920

～3/4、6/5～10 「古布を楽しむ…」着物リメイクの
洋服、バッグ等の展示販売 10:00～●
4/17～22 「フラワーリース展」ブリザードフラワー、
アーティシシャルフラワー等を使ったフラ
ワーリース展 10:00～●
6/12～17 「チョークアートとちりめん細工」トール
ペイント、チョークアート、ちりめん細工
等の展示販売 10:00～●

イベントガイド

香川県立ミュージアム ☎(087) 822-0247

- ～3/25 アート・コレクション 描かれた人々
一福岡青嵐の写生画から
常設展示室4・5 9:00～●
- ～4/15 アート・コレクション On the Table
一静物画の世界ー 常設展示室2 9:00～●
- ～4/22 四国を繋ぐー大久保謙之丞と四国新道ー
常設展示室1 9:00～●
- 4/7～6/3 20世紀の総合芸術家
イサム・ノグチー彫刻から身体・庭へー
特別展示室他 9:00～●
- 4/7 シンポジウム
「イサム・ノグチの夢」
(要事前申込) 講堂 13:30～■
- 5/19 特別講演会
「イサム・ノグチとの思い出」
(要事前申込) 講堂 13:30～■

高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- 【サンクリスタル高松】
- ～3/18 第74回企画展
「花鳥画の系譜 東溪(TOUKEI)と
南蘋派(NANPINHA)」 9:00～●
- ～3/25 学習室展
「讃岐の方言を料理(デザイン)する」 9:00～●
- 4/21～6/24 収蔵品展「FOLKLORE STUDIES～
郷土を愛した人が残したもの～」(仮称)
9:00～●

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

- 【サンクリスタル高松】
- 3/3 「平家物語・敦盛最期」におけるあはれ
講師:小野泰子(先着80名)
3階第1集会室 13:30～■
- 3/6～11 ☆菊池寛アニバーサリー「菊池寛忌」☆
菊池寛忌(3/6)を記念してイベント開催
映画上映会 ザ・ニューヨーク
フェスティバル '95芸術作品賞受賞
映画「イサム・ノグチー地球を彫刻した男」
(先着200名) 3階視聴覚ホール13:30～■
- 3/9 書道教室「文豪たちの名言を書こう!」
講師:穴田豊久(前高松市歴史資料館長)
(先着20名、20歳以上、事前申込要、書道
道具一式持参) 3階第1集会室 13:00～■
- 3/10 朗読劇「菊池寛劇場」～菊池寛の名作を
聞いて見て楽しむ朗読劇～
出演:劇団ドラマ・サロン、香川オリブ
少年少女合唱団、高松年金コーラス
演出:「三ビキノウサギ」「極楽」他
(先着200名) 3階視聴覚ホール 13:00～■
- 3/11 「ブラリきくちゃん」菊池寛及び菊池寛の
戯曲「父帰る」等ゆかりの地を歩いて巡る
(先着20名、事前申込要、小学生以上・
小学生は保護者同伴)
中央公園の菊池寛銅像前集合 10:00～■

高松市生涯学習センター ☎(087) 811-6222

- 3/1 郷土史、高松の地名の由来・変遷
大研修室 13:30～●
- 3/3 生涯学習センター開館15周年記念事業
《まなびCAN座談会》学生と考える
“ここからはじまる高松”
大研修室 13:30～■
- 3/9 マイ・エコバックを作ろう 実習室 13:30～●
- 3/10 国際理解講座
「外国人から見た高松(日本)の印象」
大研修室 13:30～■
- 3/16 段ボールを使った生ごみコンポストの作り
方講座 小研修室 10:00～■
- 3/17 生涯学習センター開館15周年記念事業
《特別講演会》地域の歴史と生涯学習
多目的ホール 13:30～■
- 3/18 こでん鉄道ものがたり～こでんの歴史
とレトロ電車に乗って工場見学～
大研修室 10:00～●
- 3/24 おはなしコンサート
多目的ホール 13:30～■

栗林公園観光事務所 ☎(087) 833-7411

- 3/30～4/8 栗林公園春のライトアップ 18:00～●
- 玉藻公園 ☎(087) 851-1521
- 3/3 マイシアターまつり 披雲閣
- 3/11～4/8 第91回植木市 二の丸跡
- 3/11 高松城鉄砲隊演武 桜の馬場
- 3/24～25 第35回香川の漆器まつり 披雲閣
- 3/30～4/8 夜桜見物夜間開放(予定) 桜の馬場 17:30～
- 5/5 玉藻公園一般開放記念無料開放
- 5/25 菊作り講習会 披雲閣

香川県教育会館 ☎(087) 833-0013

- 【ミュージズホール】
- 3/25 第22回ミュージズホール「春の音楽祭」
12:30～■
- 4/15 第15回ダンスカンパニーウィズ公演
15:30～●

香川県文化振興課 ☎(087) 832-3785

- 3/14～25 第4回高松国際ピアノコンクール
サンポートホール高松
本選(3/24) 13:00～●
- 3/18 かがわジュニア・フィル
成果発表会①&公開レッスン②
レクザムホール小ホール
①13:30～、②14:45～■
- 3/28 宝塚歌劇 雪組公演
幕末ロマン 誠の群像一新選組流亡記ー
レクザムホール大ホール
①14:00～、②18:00～●

高松市文化芸術振興課 ☎(087) 839-2636

【高松国分寺ホール】

- 3/3 TOKウインドオーケストラ定期演奏会
14:00～■
- 3/24 高松国分寺ホール舞台芸術祭
13:00～■
- 4/7 国分寺寄席(落語会) 14:00～■
- 4/14 映画上映会 ①10:30～、②14:00～●
- 4/21 デザイナーズマーケット 高松国分寺ホール、
玄関前広場・ロビー・ホール 14:00～■
- 5/5 アニメフェスティバル
14:00～■(コンサート・映画会●)

【サンポートホール高松】

- 3/3、4 第7回サンポートホール高松
デビューリサیتال
第1小ホール 各日14:00～●
- 5/5 こどもの日のこどものためのコンサート
第2小ホール 14:00～■
- 5/16 オリジナルミュージカル
ザ・デイスービス・ショウ
～It's Only Rock'n Roll～
大ホール 13:30～●

NHKふれあいギャラリー ☎(087) 825-0160

- 4/3～8 500匹の犬に出会える
ワンワンワンダフルなカレンダー展
絵画造形教室アトリエK 9:30～■
- 4/10～15 詩と絵が出会う詩集絵本「いっしょに2017」
高松ボランティア協会 9:30～■
- 4/17～22 第4回アトリエKen展
グループアトリエKen 9:30～■
- 5/22～27 第16回木陶芸教室作品展
春花秋陶会 9:30～■

かをり園 ☎(087) 821-5957

- 3/28～4/1 古今茶之湯総合展 恒例となりました新
古茶道具五百余点を一同に展示即売致し
ます(大特価コーナー設置)
御坊町福善寺2階 10:00～■

桜ショップ高松店 ☎(087) 831-8866

- 3/16～22 鈴木玄太 グラス展 カップ、鉢、花器な
どのガラス作品 10:00～■

- 4/13～19 山口志生 木彫展
ふだん使いの讃岐彫作品 10:00～■
- 5/12～18 川岸富士男 四季の草花譜展
精緻な草花の額装や軸装 10:00～■

ギャラリーen ☎(087) 851-3711

- 5/5～12 阿部知曉 絵画展 10:00～■
- 5/23～30 三浦世津子 ガラス展(初個展) 10:00～■

【杜のとなり】

- 4/24～30 野村レイ子 作品展(木のろうけつ染め)
10:00～■
- 5/21～30 中島あずさ 帽子展 10:00～■

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087) 879-0717

- ～3/18 企画展「第17回 郷土の文化拓本展」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 3/21～4/8 企画展「一明治生まれの画人ー
三井飯山の水墨画展」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 4/14～5/20 共催展「第13回 城山まつり」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 5/25～27 共催展「第40回 香南さつき展」
2階市民ギャラリー 9:00～■

高松市塩江美術館 ☎(087) 893-1800

- ～3/25 [企画展] 9:00～●
- ～4/15 [平成29年度第Ⅲ期常設展] 青と黒、
ときどき赤ー単色の魅力ー 9:00～●
- 4/3～5/6 [企画展] 9:00～●
- 4/21～8/12 [平成30年度第Ⅰ期常設展] 9:00～●
- 5/12～20 [貸館] 戸田由美子 写真展(仮称) 9:00～●
- 5/26～7/1 [企画展] 9:00～●

高松市石の民俗資料館 ☎(087) 845-8484

- ～3/18 共催展「石の旅路ー小豆島から上方へ
江戸へー」(徳島文理大学文学部学生に
よる展覧会) 会期中の土・日曜日 徳島
文理大学文学部文化財学科の学生による
展示資料解説 企画展示室 9:00～●
- 3/9、4/13、5/11 古文書を読む会
(H29年度11回、H30年度1、2回)
江戸時代の和歌等を読み解いて
講師:加藤 優(元徳島文理大学教授)
講座研修室 14:00～●
- 3/24～25 ホール展「椿展」
エントランスホール 9:00～■
- 4/6～15 共催展「萌展」 企画展示室 9:00～■
- 4/28～6/10 企画展「朝倉彫刻欄間展」
企画展示室 9:00～●
- 5/5～6 企画展関連行事ワークショップ「木著作り」
講座研修室 13:00～●
- 5/19 (仮) ソプラノコンサート
エントランスホール 18:30～●

土庄町教育委員会事務局生涯学習課 ☎(0879) 62-7013

- 3/4 土庄町芸能まつり
土庄町立中央公民館大ホール 13:00～■
- 4/7 放哉忌
西光寺、小豆島尾崎放哉記念館 10:00～■

さぬき市志度音楽ホール ☎(087) 894-1000

- 3/25 New Artists Recital Vol.28 l'quode!
志度音楽ホール de ピアノアンサンブル
14:00～●

東かがわ市教育委員会生涯学習課 ☎(0879) 26-1238

- 4/28 新緑コンサート(オカリナコンサート)
東かがわ市交流プラザ多目的ホール
14:00～●

坂出市教育委員会文化振興課 ☎(0877) 44-5036

- 3/17 第18回レギンコウ「坂出のみなと文化」
坂出市教育会館(予定) 9:30～■
- 4/29 万葉まつり(事前申込要)
万葉会館 10:00～●
- 5/13 第31回狭々島万葉茶会
万葉会館 300円 10:00～16:00

■財団からのお知らせ

中條文化振興財団

●高松市美術館

「京都市美術館名品展 京の美人画100年の系譜」

女性像は、古代から描き続けられてきたテーマのひとつです。女性の描写は、とりもなおさず時代を表徴するものであったといえるでしょう。

本展では京都市美術館所蔵の日本画作品から精選した、上村松園《人生の花》、土田麦僊《平牀》、前田青顧《観画》、菊池契月《少女》など約70点の名品を通して、明治・大正・昭和にいたる女性像のさまざまな表現と変遷を紹介します。

会場 高松市美術館2階展示室
会期 平成30年4月21日(土)～

6月3日(日)

観覧料 一般1000円(前売800円)
大学生500円(前売400円)

高松市美術館友の会スペシャル・イベント 「ほっと茶の会」のお知らせ

本展に合わせて、美術館友の会主催と財団の共催でお茶会を開催します。

日時 5月6日(日)

①10時 ②11時 ③12時
④13時 ⑤14時 ⑥15時

場所 美術館 中2階ロビー
席料 1000円(当日整理券)

●晴松亭コンサート

「春の宴」

財団の茶室で楽しむコンサートを不定期でお届けしておりますが、今回は室内楽に挑戦します。岡山フィルハーモニック管弦楽団のメンバーを中心に結成されたアンサンブル・フィノの皆さんをお招きしての演奏会です。

メンバーはヴァイオリンの石原崇子、和田絵里子。ヴィオラの杉山みゆき、大道真弓。チェロの山本玲子。ファゴットの小野エリコの六人で構成され、クラシックからポピュラーまで楽しいプログラムを演奏して下さいます。

まるで小さなスタジオで聴くような間近な演奏をお楽しみ下さい。

日時 平成30年4月21日(土)

第1回 開演13時
第2回 開演15時

料金 2500円(抹茶とお菓子付き)
お申し込みは財団事務局まで。



召しませ茶の湯 まちかど喫茶去「スミダの棲か」

茶会のお知らせ

南新町と常磐街の両商店街の角にあるパティスリースミダの3階に特設した茶席で定期的にお茶会を開催しています。茶席は1席8人と少人数です。今更聞けないお茶の話。全然知らないお茶の話など、お客様の興味に従ってお話をしながらの楽しいお茶会です。ぜひご参加下さい

日時 3月17日(土)、4月14日(土)、6月16日(土)、7月21日(土)
薄茶席 1,500円 ①13時 ②14時30分
濃茶席 2,500円 ③16時

お申込 090-3783-6239までショートメッセージで
ご希望の時間と人数をお知らせ下さい。

主催 スミダの棲かプロジェクト

生徒さん募集しています 子供茶の湯教室のご案内

財団の茶室で習う小学生向けの茶の湯教室「ヤングヤング」は、毎月二回。第二、第四土曜日の13時から夕方まで教室を開催しています。送り迎えをしていただければ、付き添いは必要ありません。時間もご都合の良い時間で大丈夫です。お点前をしたりお客さんになったりの楽しい教室です。低学年も大丈夫ですので、ぜひこの機会に体験させてあげて下さい。受付は随時しております。講師は、武者小路千家の山下純子先生。月謝は、3,000円です。

編集後記

数十年に一度の最強寒波に見舞われた日本列島、ここ香川でもめずらしく降雪・積雪がありました。それでも、日射しの暖かさに春の気配が感じられます。

立春を過ぎたころから雛飾りをよく見かけました。立派な段飾り・木目込み、絵雛、折り紙雛、土鈴、陶器製のものなど様々な人形がありますが、庵治石の粉末を混ぜて創られたガラスの雛人形があるのをご存じでしょうか？人形以外にもいろいろなものが創られています。庵治石の粉末の分量で色の変化を出せるというのです。何とも不思議の世界です。

次世代を担う子供の成長を願い、祈る雛祭りに併せ、自然の産物を活かしたこの作品づくりも広く周知されていきますようにと願っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL(087)826-3355

FAX(087)826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp